
ホーリーナイト

貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホーリーナイト

【Nコード】

N1591A

【作者名】

貴

【あらすじ】

影に潜み自分を隠しながら歩き続けるその名は貴嗣飯の名をホーリーナイト（聖なる月）ナイトの仕事はトレジャーハンターそしていつものようにナイトは洞窟や滝の裏側などを探っていたそしていつものように宝物、宝石、宝剣などいろんなものを取っては売って金にしていたそしてこの話の始まりはある話からであった

プロローグ

プロローグ

男性A「なあなあ聞いたか？あの話」

男性B「ああ聞いてるさあの泉のことだろ？」

??「ん？宝の匂う話だな」

俺は貴嗣、仮の名をホーリーナイト、噂では俺のことをみな ナイトと呼んでいるらしい。

男性A「そうそう！宝が眠ってるって話らしいな？」

男性B「なんか10億以上の物らしいぜ？」

男性A「確か場所は・・・そそ！聖の森にある聖力の泉だったよな」

ナイト「こいつは聞き捨てならないね！さっそくいくか！」

ナイトはバーからでると、いそいで森へと向かった

男性A「話聞かれたかな？」

男性B「まあいいじゃない？それでさっきび続きだけどさ・・・

なんか別の世界とつながってるって話」

男性A「そんなの噂だよ噂！」

男性B「だよな！」

そんなことも知らずにナイトは武器や防具を揃え泉へと向かった。

2、30分歩くとついた泉。

ナイト「ここか・・・さて潜って探すか！」

ナイトは武器に水にぬれないため完全に結んだ袋にいれて持って

泉へと入っていった。

しかし、ナイトは探すが見つからない

ナイト「ふはっ！何にもないな．．．．．チツやはり噂か．．．」
そうして帰ろうとすると．．．

ドン！

何か落ちてきたような音がした

ナイト「なんだ？」

?????????。「ウオオオオオオオ！！！！！！！！！！」

ナイト「モンスターか！これは．．．．．ゴ布林スライム」！
！！！！」

ゴブスラ「シネエエエエエ！！！！！！」

斧を振り落とすゴ布林に剣で対抗するナイト。

しかし力の差がありすぎたか耐え切れずに振り飛ばされてしまった。
．．

ナイト「くっ！このままでは．．．」

ゴ布林「弱すぎるんだ！シネエ！」

そしてゴ布林は斧を振り落とした。

しかしナイトは泉の中へと潜った

潜っているとナイトの周りが光っている

ナイト「なんだこれは吸い込まれていくような．．．」

ナイトはそのままわけのわからず気を失った。

プロローグ

完

プロローグ（後書き）

まあまあどすけどじ・・・

謎の世界

第1章

裏の世界

ナイト「……ん〜?」

気を失っていたせいかここが何処だかさっぱりわかっていない。

ナイト「俺は泉の中で……」

しかし地上にいたナイトそして一度も見たことのない場所。

ナイト「まあいいか!」

くしゃ!

ナイト「ん〜?何か踏んだ……なんだ花か」

花を踏んでしまったナイトそして……

???「私の花を踏まないで!!!!!!」

怒りながら走ってきたのは女の子

ビシッ!

ナイトは叩かれた

ナイト「いてっ!なんだよ!いきなりたたいてさ!」

???「あなたが花を踏むからでしょ!」

ナイト「それは悪いけど……もういいやごめん!」

???「わかればよし」

ナイト「そいであんたは誰だ?」

???「あたし?あたしはエリナ、あなたは?」

ナイト「ん?俺は貴嗣。みなは俺のことをナイトと呼ぶ」

ナイト「それでここは何処だ?」

エリナ「ここ?あたしの家」

ナイト「ふ〜ん……って!俺なんでこんなところにいるんだ〜!!」

エリナ「そうよね〜……って変態!」

ナイト「違う誤解だ！目覚めたらここにいたんだ！」
エリナ「嘘を言わないで！」
ナイト「本当だ！いちいちこんなことで嘘つく男じゃない！」
エリナ「そういえばそうねえ〜」
エリナはナイトの顔をじろじろみている
ナイト「なんだよそんなにじろじろ見るな」
エリナ「何照れてんの？」
ナイト「別にれてねえよ」
エリナ「可愛い！」
ナイト「へっ！」
そしてナイトはここに来るまでのことを話した。
エリナ「そっか〜そんなことがね〜」
ナイト「エリナも話してくれてどうもだな！ってことは共通してることはモンスターのことだな」
エリナ「そうだねでも私は女性戦士じゃないからね？」
ナイト「じゃあなんだよ」
エリナ「私はALL魔導師なんでも使えるの白魔法でも黒魔法でも召喚獣でもね」
ナイト「便利だな〜まあいいかとにかく俺はここを出るぞ」
エリナ「どうせならつれてってよ〜」
ナイト「なんでだよおれはトレジャーハンター。危険はたくさんだぜ？それに女の子を危ない目にあわせることはできんからな」
エリナ「いいじゃないの！私は魔法でも使えるんだから！意地でもついていくわ！」
ナイト「怪我してもらんぞ」
こうしてナイト、エリナは冒険へと旅立った。

謎の世界（後書き）

まだまだ続く！

神龍の洞窟

神龍の洞窟

家を出てむらを通ぎ、もりを通ぎ歩いてしていると洞窟を発見した

ナイト「なんだここは」

エリナ「ここは神龍の洞窟よ・・・神の龍が住んでいて1つだけ願いがかなえられるっていう話！」

ナイト「っ！そか！よしさっそく入るべし！」

エリナ「駄目よ！今入ったらモンスターに食われてしまうわ！」

ナイト「知るか！ほらっ行くぞ！」

エリナ「待つてよ〜」

2人は洞窟の中に入っていった

ナイト「案外暗いなあ〜火でもつけねんのか？」

エリナ「無理よ何か木の棒か何かないかしら？」

ナイト「おお！ちょうどいいものがこんなところに」

ナイトが掴むと

ナイト「なんだこのむにむにしたものは？」

ドラゴン「オレノシツポニサワルナ！！」

エリナ「ドラゴンよ！」

ナイト「チツ！こんなときに・・・せりや！！！」

エリナ「風よいざ刃として吹かれん！ウインド！」

ザクツザクツザクツ！

ドラゴン「ぐはあ！これやるから勘弁して！」

木の棒を手に入れた

ナイト「これで一安心だな！いざ出発！」

と出発しかけた瞬間

???「待て――!!」

エリナ「またなんかきたわねえ」

ギルガメツシュ「なんかとはなんだなんかとは!許さんぞ!」

ナイト「剣抜くのはやつ!雑魚が調子に乗るな!隼斬り!」

ギルガ「その程度か!てりや!」

ナイト「くつ・・・なんだこいつの剣・・・まさかバイオソードか・・・」

ナイトの体は麻痺して動かなくなった

ギルガ「ハッハッハ!バカめ!掛かったな!最後だ!しねえ!!」

ナイト「くつ・・・これまでか・・・」

エリナ「私を忘れてない?」

ギルガ「あっ・・・」

エリナ「地獄に落ちろ!デジョン!」

ギルガ「覚えてるよ!!!!」

ナイト「危なかった^^;」

エリナ「助かってよか・・・った・・・」

ナイト「お・・・おい!」

エリナはその場に倒れた

ナイト「しかたねえな・・・とりあえず魔方陣でも張るか」

ナイトは魔法の本でのモンスター避けの陣を張った

エリナ「う・・・ううう・・・うん・・・」

ナイト「気がついたか?」

エリナ「う・・・うん・・・私・・・」

ナイト「ギルガメツシュを消してくれたと思ったら気絶してさあ」

ビックリしたぜ!全く無理はするなよ」

エリナ「うんありがとう」

ナイト「何にもしてねえ」って・・・それで1つ悪いんだが・・・この痛みとつてくれ」

エリナ「もしかして毒かかったまま?」

ナイト「薬草しかないからな・・・ポイズナぐらい使えるだろ?」

エリナ「うん待つて！……ポイゾナ！」

ナイト「ふうく助かった……さて寝るか！」

エリナ「うん！」

ナイト「お前はそっちで寝ろ」

エリナ「なんで？外でもいいじゃん！」

ナイト「俺が張った陣じゃあ心配だからな！まあいいさとにかくテントで寝ろ」

エリナ「わかった……おやすみ！」

ナイト「はいはい」

そして……

翌朝

ナイト「ふあああ……やっと朝か……さて起こすか……エリナ……」

ナイト「……あれ？エリナ」

返事がない。覗いてみると

ナイト「エリナがない！」

置手紙のようなものがあつた

ホーリーナイトの野郎

てめえのエリナは預かつた返して欲しければ洞窟の2つ別れた道の右に行け

10時までに来なければ……殺す……

ゴ

ブリン一族

ナイトは手紙を破ると

ナイト「今は何時だ……9時か……行く……」

ナイトの眼つきは変わった

そして歩いてみると2つの道を右に行きさらに歩くと・・・

ゴ布林A「来たな！ナイトめが！」

ゴ布林B「お前は俺らがつぶす覚悟しろ！」

ゴ布林C「しねえ！」

ゴ布林D「てめえのエリナはこつちだ」

縛られたエリナがの姿があった

ゴ布林ボス（ゴ布林ナイト）「ナイト同士の対決だてめえら行くぞ！」

ゴ布林A B C D「しねえ！！！！！」

ナイトは・・・

ナイト「・・・邪魔だ・・・消える・・・斬瞬滅殺斬・・・

」

ゴ布林4匹は・・・みな倒れた

ゴブナイト「やはりか・・・まあいい俺がつぶす・・・死ね！」

ゴブナイトが振りかぶった瞬間！

ナイトはゴブナイトの剣を掴んだ・・・

手から血が流れながら言った

ナイト「こんなことをして楽しいのか・・・俺はてめえを許さない・・・地獄に落ちろ！メヴァストライク！」

ゴブナイト「この俺がこんなやつに！・・・ぐはああ！！！！！」

ゴ布林ナイトは碎け散った・・・

ナイト「・・・大丈夫か？エリナ？」

エリナ「えっ??あ・・・うん・・・」

ナイト「何びびってんだ？」

エリナ「別に・・・」

ナイト「そうか・・・戻るぞ」

エリナ「待つて怪我治さないと・・・」

ナイト「いいんだ・・・見てるよ？」

手を傷口に当て

ナイト「集気回復！」

傷口は塞ぎ治っていった

エリナ「すごい！なかなかね」

ナイト「それほどではないさ・・・さあ行くぞ・・・」

2人は戻ったもう1つの道へといった。

??「引き返せ！」

ナイト「・・・」

エリナ「なんだか気味が悪いわ」

ナイト「後ろをしっかりついておけ」

エリナ「うん」

??「引き返す気はなさそうだな」

そして付いた場所は滝のある場所。

神龍「我は神龍。貴様らは何のために来た？」

ナイト「別に目的はない。神龍よ・・・俺はお前に力を貸してほしい」

神龍「お前も力か・・・俺を倒すことだ・・・いくぞ！」

ナイト「フツッ！一瞬で潰してしまおうぞ！」

神龍「・・・無駄だ！メテオ！」

エリナ「無理だわ・・・」

ナイト「フン！フン！フン！邪魔だ！・・・ぐはっ！」

ナイトはテイションがOUTした

ナイト「はあ・・・はあテイションさえ・・・力が出らん・・・」

エリナ「しっかりして！」

神龍「おしまいだ！しねえ！」

しっぽを振り落とそうとしたそのとき

??「助太刀いたす！いざ！せりゃ！！！」

神龍「お前もか！無駄だ！・・・何！ぐはあ！！！」

??「ざつとこんなもんさ！大丈夫か？」

ナイト「君は誰なんだ？」

リヨウ「俺か？俺はリヨウってんだよろしく！」

ナイト「俺はナイト、ホーリーナイトだこっちはエリナ。よろしく！」

エリナ「よろしく」

2人はいままでのことを話した

リヨウ「そっかそんなことがあったか」

ナイト「俺は探してるんだ帰る道をな・・・」

リヨウ「そか・・・なあ・・・俺もついていっていいか？」

ナイト「なぜだ？楽しくないぞ？お前みたいな強いのが弱いのと一緒に入れても」

リヨウ「いいのさ！楽しいそうだしお前らみてるとなんだか心配でさ？頼むよ？」

ナイト「まあいいか！・・・なあ！エリナ！」

エリナ「そうねえ！後1人女性がほしいわ！」

リヨウ「後3人はほしいなあ」

ナイト「・・・ま・・・まあとにかく行くぞ！」

槍の使い手リヨウが仲間になった

ちよつと心配だが結構役に立ってくれそうだ！

これからまた旅はまだまだ続く・・・

第二章

完

召喚獣

第3章

召喚獣：リヴァイアサン

リヨウ「さてと・・・これからどうする？」

ナイト「そうだな・・・ここらに何かないのか？」

エリナ「そういえば・・・こつから南にいったところに港があったわそこにいきましよう」

ナイト「そうだな、よしいくぞ」

リヨウ「最初に行く場所が港か・・・」

ナイト「しょうがないだろ？とにかく行くぞ！」

リヨウ「お・・・おい！待てよ」

3人は南にある港へと向かった

次々に出てくるモンスター等も蹴散らし

ようやく港に着いた

ナイト「ようやくついたな・・・名前はなんだ？」

リヨウ「確か・・・ヴァイアタウンだったよな」

ナイト「まあとにかく港に来たんだからさこの島を出て西南の島に
いってみよう」

リヨウ「俺が話しをつけてくる」

リヨウ「おじさん！船出せるか？」

おじさん「悪いね・・・今ちよつとした化け物が出てきてるんだだ

からわたれないんだ」

リヨウ「そうか！やったねじゃあ腕試しそれを倒しに行くよ仲間もいるんだ！」

おじさん「それじゃあ頼もうか・・・頼んだぞ」

リヨウ「ちょいまってて」

リヨウが戻ってきた

ナイト「なんだって？」

リヨウ「だせるってさ・・・でもなんか獣がいるから気を付けるだつて」

エリナ「こつちにはリヨウにナイトがいるから大丈夫よ！」

ナイト「そうだな・・・じゃあいくか」

リヨウ「おじさん！OKだ・・・さっそくいこう」

おじさん「よしてきた！がんばってくれ！」

船に乗ると・・・

船長「おいテメエら！出航だ！」

乗組員「ハイ！」

船は動き出した・・・1時間ぐらいいってからだろうか

ドドーン！

ナイト「ようやく獣さんの登場ってわけか」

リヨウ「いくぞ！蹴散らしてやる！」

船の上に出てみると・・・

獣「ゴアアア！」

エリナ「これは・・・モンスターじゃないわ！」

ナイト「何！？」

リヨウ「それじゃあこれはなんなんだ！」

エリナ「召喚獣の1匹・・・リヴァイアサンよ」

リヴァ「ゴアアア！」

エリナ「助けてくれって言ってる」

ナイト「操られているのか・・・」

リヨウ「誰がそんなことを・・・とにかく気絶させるようにし

謎の姉妹

第4章

2人の

姉妹

ナイト「いててて……ココは何処だ？お〜い！リョウ！エリナ！」

しかし周辺には誰もいないようだった

????「お〜いナイト!!！」

????「こつちよナイト!!！」

ナイト「待ってくれよ〜！」

リョウとエリナを見つけた………が様子がおかしい

リョウ「はやくい……く……ぞ」

エリナ「おい………て………いく………わ………

よ

ナイト「ん???.………様子が変だお前は違う………お前ら

は誰だ!!！」

????「あ〜あ見つかつちまつたじゃねえか!!！」

????「この声きついんだからしようがないじゃないの!!！」

ナイト「貴様らよくも2人の真似を………しかも似てねえし……

・許さん!!！」

????「しかないないわ!戦うわよ!!！」

ナイト「動きが遅いわ!食らえ!エネルギー全開!ファイドフレア

!!！」

知らぬ2人命中し

????「いててて………痛いじゃないの!!！」

ナイト「あれ?モンスターじゃなさそうだな!………名を名乗れ!!！」

アヤコ「私はアヤコよ・・・こつちがナナセ」

ナナセ「どうもです」

ナイト「なんだ・・・お前ら・・・姉妹か？」

アヤコ「そうよ！まったくきりつけてくるから傷ついたじゃないの！」

ナイト「だいたい！まねなんするからだろ！つてなんで2人のことしってたんだよ！」

ナナセ「私たちも一緒にあの船にのってきたのよ」

ナイト「そうだったのか・・・わりいわりい・・・代わりといつちやなんだが・・・ケアルラ！」

アヤコ「あなた魔法使えるの？」

ナイト「少しな5つは使えるさケアルラ、ファイラ、ブリザラ、サンドラ、バイオガだ」

ナナセ「結構役に立ちそうね」

???「ケケケ・・・」

ナイト「ん？何か言ったか？」

ナナセ「いいえ何も言っていないわ？」

ナイト「おかしいな・・・」

???「ケケケケ・・・」

ナイト「やっぱりなんかいったる？」

ナナセ「何にもいっていないわよ！まったくしつこいわ！」

???「ケケケケケケ・・・ハア！」

ナイト「危ない！！」

アヤコ「きゃっ！」

ナナセ「このモンスター・・・ウィザードよ！」

ナイト「雑魚か・・・さて・・・俺も魔法でも使ってみるか」

ナイト「バイオガよ！体力を吸収せよ！」

バクバクバク！

ウィザード「ぎゃあああ！！！！！！」

アヤコ「落ちる！！！！！！」

ナナセ「危ない！レビテト！」
ばさっ！

アヤコ「よかったしりもちつくところだったわ」

ナイト「はははは！（笑）」

アヤコ「何がおかしいのよ！．．．あ．．．だんだんきつ
くなってきた」

ナナセ「毒がかかったんだわ！」

ナイト「なんだと？俺のせいか．．．悪い．．．」

アヤコ「．．．いいのよ．．．気にしないで．．．」

ナナセ「はやく手当てしないと．．．」

ナイト「そうだ．．．毒消しがあつたはず．．．あつた」
調査中．．．

ナイト「ほらっこれを吞め」

アヤコ「ありがと．．．」

アヤコの毒は治ったようだよかった

ホッとしたナイトは疑問に思い問いかけた

ナイト「今からお前らどうするつもりだ？」

アヤコ「私は．．．別に決まっていなわ」

ナナセ「あたしも！」

ナイト「そっか．．．ならそこら辺歩いてる．．．じゃっ！」

アヤコ&ナナセ「ばいばい．．．」

ナイトはその場を去った．．．

もう一度さよならというとする後ろにはもういない

ナイト「もういったのか．．．まあしょうがないか．．．」

そう思い前を振り返っていくと．．．

前にはナナセとアヤコが立っていた

ナイト「ビックリしたくなんだよまだ用か？」

ナナセ「あのさ．．．いいにくいんだけど．．．」

アヤコ「はつきりいいなさいよ！私もだけど．．．」

ナイト「なんだ？さっさと見えYO！」

アヤコ「一緒に旅していい？」

ナナセ「私も・・・」

ナイト「それだけか？」

アヤコ&ナナセ「うん」

ナイト「へっ！なんだよいいにくいとかないじゃん！・・・ほら行くぞ！」

内心ちよつと心配な面もあったがまあよしとして・・・

また2人の仲間ができた

白魔導師のナナセと黒魔導師のアヤコであった

今からこの2人をつれリヨウとレイナを探すのであった・・・

第4章 完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1591a/>

ホーリーナイト

2010年10月9日00時55分発行